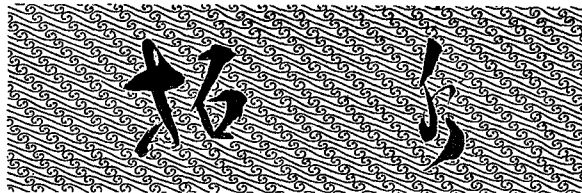


豊かで充実した老後を 漁業者年金

ひとりば万人のために、万人はひとりのために

2月号 No. 388
一部 10円

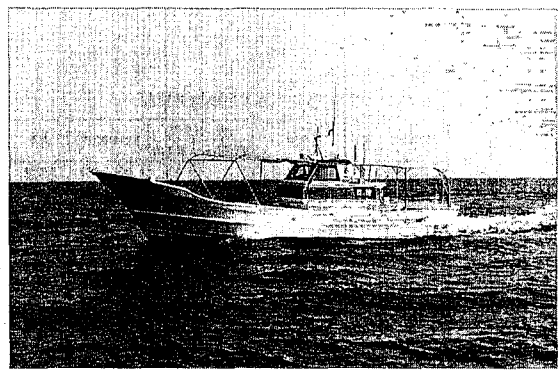
発行所 兵庫県漁業協同組合連合会
(財) 兵庫県水産振興基金
神戸市兵庫区中之島 2-2-1
TEL 681-6954~7
発行人 兵庫県漁業協同組合連合会



全県地域沿構指定 調査船「拓水」が完成

昨年十二月末に完成 関係者の期待高まる

県漁連が昨年九月から建造を進めてきた漁場環境調査船「拓水」が、去る十二月末完成し、現在、各種法令に基づき諸検査、諸手続事務の段階に入っている。この船は、国の全県地域沿岸漁業構造改善事業の指定を受けてのり養殖業を中心に漁場環境調査、生産指導業務に取組むほか、夏期赤潮対策や流出油事故等緊急対策等業務に



漁場環境調査船「拓水」

従事すべく県漁連が建造したものである。なお、船の装備関係は一般航海機器(ローラ、カーブプロッタ、レーダー、魚探等)のみとしており、調査業務の足として、機動性、利便性を配慮した船型を選択。建造はヤマハ関西(姫路)が請負、ヤマハ天草製造(株)が造船された。これ迄、本会関係の漁場環境調査は兵庫のり研究所が主体となり、業務課題が解決される

ものではなく、従来の偏船方式の一部継続はもとより、県ならびに水試の各船艇による調査、指導業務との一層の連携協力が必要となる。又、本船が真に漁業者の利益向上に貢献出来る運用体制が整う迄には、また若干の間が必要と考えられるので、温かく見守ってほしいものです。

イントネシア研修生 アフナルさん 日本漁業を勉強中

五色町漁協、福良漁協

県立香住高校、県水試などで研修

現在、(財)PHD協会は、国際協力を進める上で、お金や物などの単なる物質的な援助ではなく、「人づくりに」人と人とのつながりに主眼を置き、村づくり、国づくりに役立ててゆくことを目的として、アジア諸国を中心に派遣事業を行っている。

アフナルさんは、三月から四月にわたり、神戸YMCAにおいて、日本語研修を受けた後、

昭和63年度 第1回漁協税務 講習会を開催

漁協、系統団体より六十一名が出席

兵庫県漁業協同組合連合会は、昭和六十三年度第一回漁協税務講習会(法人税関係)を、平成元年一月十三日(金)兵庫県立水産会館大会議室に於いて開催しました。県下漁業協同組合、系統団体から六十一名が出席し、昭和六十三年度の法人税申告にかかるとしての研修を行いました。これは例年講師に公認会計士・税理士の梅村新一郎先生を迎えて開催しているものです。当日は時間約四時間と比較的短いため、難解な法人税全般について全てを習得しがたいところですが、昭和六十三年度の主な改正点、各組合における新たに発生した貸借関係等の解消に大いに役立っています。また、四月一日から導入される消費税についても概要を説明しました。



主催者としては、今後も各漁協の要望を受け、節税対策等について研修を加え、より充実していきたいと考えています。なお、本年度中に第二回漁協税務講習会として、消費税に関する研修を行う予定です。

本格的に漁業研修に移りました。主な研修内容は次の通りです。

- ①研修期間
- ②研修地
- ③研修内容

漁業研修1

- ①五月二日～五月十九日
- ②津名郡五色町、五色町漁協
- ③日本漁業のオリエンテーション、沿岸漁業について(流し網、建網、漁網の捕獲、日本の漁村の生活)

漁業研修2

- ①五月三十日～六月三十日
- ②城崎郡香住町、県立香住高等学校
- ③底曳網漁業、水産加工販売、淡水エビの養殖について

漁業研修3

- ①七月四日～八月十二日
- ②静岡県西伊豆町、静岡県西伊豆町、静子遠洋漁業協同組合
- ③遠洋漁業について(一本釣漁法、タイ・フグの養殖)

漁業研修4

- ①九月二日～十月六日
- ②和歌山県和歌山市、粉河町
- ③底曳網漁業、水産加工販売、淡水エビの養殖について

漁業研修5

- ①十月十八日～十一月十一日
- ②三原郡南淡町福良、福良漁協
- ③ハマチ養殖、シラスの加工について

漁業研修6

- ①十二月七日～十二月十三日
- ②明石市、県立水産試験場
- ③魚類種苗生産技術について

第に日本の習慣にも慣れ、漁業研修2の県立香住高等学校での研修では、年代に近い高校生たちとともに勉強が楽しく研修できたようでした。また、五色町漁協、福良漁協に於いては、柳組会長及び酒部組長(県漁連会長)が、直接研修指導にあたり、誠に充実した研修であったようす。なお、このたびの(財)PHD協会からの漁業実習生として、アフナルさんの他に、同じインドネシア出身のモハメド・ファイジンさん、ハリス・ペテイさんが来日しており、アフナルさん同様、漁業研修を受けています。県漁連として、協力してゆきたいと考えております。



県水試で研修を受けるアフナルさん

生活改善通信

魚はなれ、つてホント?

日本は周囲を海に囲まれ、多彩な魚介・海産物に恵まれた島国である。古い昔から米・麦を主食とする私たちが日本人の食生活において、これらの魚介類は大切なタンパク源となってきた。しかし、保存の技術がなく、流通技術も発達していか

和五〇年代には、魚はなれ、比較的食べられている。四〇年代には、魚はなれ、比較的食べられている。三〇年代には、魚はなれ、比較的食べられている。二〇年代には、魚はなれ、比較的食べられている。一〇年代には、魚はなれ、比較的食べられている。

昭和六〇年頃からは、魚はなれ、比較的食べられている。五〇年代には、魚はなれ、比較的食べられている。六〇年代には、魚はなれ、比較的食べられている。七〇年代には、魚はなれ、比較的食べられている。八〇年代には、魚はなれ、比較的食べられている。

兵庫JCC通信

今、農協・生協では

農業協同組合

「高齢者対策」について考える

農協健康会議ひらく

一九八五年現在、わが国の老年(六十五歳以上)人口比率は一〇・三%。これに対し、農家人口に占める同比率は一七・三%で、二〇〇五年のわが国全体の推計値にほぼ一致します。つまり、農村は二十年以上高齢化社会を先取りしていると言えます。

農協中央会ならびに県各連合会は、その

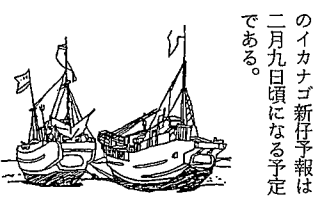
新鮮な魚が手にはいりやすい漁家においては、よく食べている人五六%とさすがに多い。しかし、こちらでも主婦が魚料理をしない四八%、料理ができない五三%、臭い骨がある三九%、という結果がでている。このように、料理を作る側にも、食べる側にも、なにかとやっかいな魚料理は、家庭料理のレパートリーからはずされがちなのは残念ながら事実のようである。

因になつてはいる。一方新鮮な魚が手にはいりやすい漁家においては、よく食べている人五六%とさすがに多い。しかし、こちらでも主婦が魚料理をしない四八%、料理ができない五三%、臭い骨がある三九%、という結果がでている。このように、料理を作る側にも、食べる側にも、なにかとやっかいな魚料理は、家庭料理のレパートリーからはずされがちなのは残念ながら事実のようである。

ウオは昨年同様年明け後も好漁であった。紀伊水道北部のマアジ漁は二月で終了した。(刺網・延縄) 大阪湾北西部を主漁場とするキス漁、延縄では、この時期としては例年になくキスの漁獲量が多い。



海況 (明石海峡周辺) 旬平均水温は上旬一〇・九℃、中旬一〇・八℃を示しており、平年に較べて上旬は〇・一℃高目、中旬は一・〇℃高目である。(大阪湾西部・紀伊水道北部) 一月二日の調査結果によると、大阪湾の表層水温は〇・九〜二・三℃の範囲にあり、平年に較べて〇・三℃程度高目である。また紀伊水道北部の表層水温は一・二〜二・一五℃の範囲にあり、平年並かやや低目である。



努力める。③高齢者の生きがいがづくり活動をさらに展開し生活援助活動にも取り組む。――の申し合わせを行いました。また、当日は「高齢者対策活動展」を併催し、先進農協の取り組み事例などが発表展示され、参加者の関心を集めました。

生活協同組合 ユニセフの活動、子に伝えよう 昨年の十一月十七日(土)、宝塚市立完成小学校で、神戸医療生協の西尾乃理理事が全校児童約九百人にユニセフの話をしました。西尾理事は一九八七

漁海況情報

平成元年一月 兵庫県立水産試験場

調査地：明石浦 主漁場：大阪湾西北部および播磨灘東部

漁業種別	隻数	主魚種	一隻 日平均		キロ単価(円)	備考	
			漁獲量(kg)	前年比			
小型底曳網	20	メイトガレイ	3	0.5	4,000-5,500	大阪湾	
		アイナメ	5-10	1.0	800-2,000		
		アナゴ	10	0.5	800-1,700		
		マコガレイ	2-3	0.5	500-1,500		
		キス	10	0.5	700-1,000		
		エビ	7-8	0.5	1,000-3,000		
		マダコ	7-15	0.8	600-1,500		
		メイトガレイ	8-10	1.0	4,000-5,500		播磨灘
		アイナメ	5-10	1.0	800-2,000		
		アナゴ	10	0.5	800-1,700		
マコガレイ	2-3	0.5	500-1,500				
一本釣	40	エビ	4-5	0.5	1,000-3,000		
		マダコ	7-15	0.8	600-1,500		
		イイダコ	20-30	1.0	300-800		
		タチウオ	40-70	1.2	300-1,500		
一本釣	10	スズキ	5-15	2.0	1,500-2,500		
		アイナメ	3-8	1.0	1,500-3,500		

漁業種別	隻数	主魚種	一隻 日平均		キロ単価(円)	備考	
			漁獲量(kg)	前年比			
小型底曳網	2	シラサカ	0.5	0.5	4,000	エビ得	
		カウビ	1	0.5	2,000		
		小エビ	5	0.5	300-700		
		ガザミ	1	1.0	1,200-3,000		
		アカシタ	1	0.4	1,000-2,000		
		マコガレイ	10	0.5	800		
		メイトガレイ	10	1.2	1,300-2,700		清網
		ヒラメ	2	0.5	2,000-10,000		
		カサゴ	3	0.5	1,000		
		オコゼ	1	1.0	7,500		
一本釣	4	マダコ	4	0.5	850-1280	魚桁	
		メイトガレイ	6	0.6	2,000		
		クロウシノシタ	2	0.5	2,500		
		コチ	1	0.5	1,000		
船曳網	5	サヨリ	10枚		1,750-3,100		
		タチウオ	90	1.0	700-1,300		
一本釣	4	カサゴ	4	1.0	1,500		
		マダコ	6	0.6	850-1,280		
		カサゴ	5	0.5	1,000		
		サザエ	10	2.0	1,100		
刺網	5	マコガレイ	2	0.5	700		
		キス	40	0.8	1,130		
		アワビ	10	0.5	3,000-8,000		
		サザエ	10	2.0	1,100-1,500		
一本釣	2	ウニ	2枚	1.0	1,500		
		赤ナマコ	20	1.0	1,000		
		青ナマコ	5	0.5	500		
		アサリ	45		220-500		

漁業種別	隻数	主魚種	一隻 日平均		キロ単価(円)	備考
			漁獲量(kg)	前年比		
小型底曳網	35	サルエビ 大	2-8	1.0	1,600	
		サルエビ 小	5-10	1.0	700	
		キス	5-15	0.8	650	
		ミズイカ	2	0.5	120	
		シャコ	5-15	1.0	200	
		テナガダコ	10-20	1.0	400	
		アナゴ	10-20	1.0	650	
		マダイ 大	5	4,500		
		マダイ 中	5	3,000		
		マダイ 小	20-30	2,500		
一本釣	50	マダイ 中、小	3-15	1.0	2,500-3,000	
		マダイ 大	2-3	0.3	4,000	
刺網	17	マコガレイ	20	0.5	700	
		サザエ	5-10	1.0	1,200	
突棒	5	赤ナマコ	15-30	1.0	800	
		アワビ	3-8	0.8	2,500-4,000	
		サザエ	10-15	1.2	1,200	

漁業種別	隻数	主魚種	一隻 日平均		キロ単価(円)	備考			
			漁獲量(kg)	前年比					
小型底曳網	20	アナゴ	6-8	1.0	2,000-2,300				
		キス	3-6	1.0	1,200-1,500				
		エビ	1-3	0.8	500-1,100				
		ウマヅラハギ	5-10	0.8	700-800				
		カサゴ	10-30	1.0	1,800-2,000		瀬戸内		
		アイナメ	3-8	1.0	1,000-1,200				
		一本釣	15	メバル	1-2		1.0	2,600-3,000	
				カサゴ	1-2		1.0	2,800-3,200	
				タチウオ	10-50		1.5	500-900	
		一本釣	30	サワシ	1-3		1.0	1,500-1,600	
サゴシ	1-2			0.5	1,100-1,200				
アナゴ	40-60			1.0	2,000-2,100				
延縄	6	キス 小	100-150	2.0	400-450				
		キス 大	30-60	1.5	1,800-2,100				
刺網	5	マコガレイ	1-2	1.0	1,000-1,500				
		メバル	2-4	2.0	2,000-2,400				
一本釣	5	キス	10-30	1.5	1,800-1,900				
		赤ナマコ	3-8	1.0	800-1,000				
一本釣	10	青ナマコ	2-5	1.0	1,600-1,800				
		アワビ	2-3	1.0	3,800-4,300				
		マダコ	10-30	0.8	1,300-2,000				

漁業種別	隻数	主魚種	一隻 日平均		キロ単価(円)	備考
			漁獲量(kg)	前年比		
小型底曳網	35	サルエビ 大	2-8	1.0	1,600	
		サルエビ 小	5-10	1.0	700	
		キス	5-15	0.8	650	
		ミズイカ	2	0.5	120	
		シャコ	5-15	1.0	200	
		テナガダコ	10-20	1.0	400	
		アナゴ	10-20	1.0	650	
		マダイ 大	5	4,500		
		マダイ 中	5	3,000		
		マダイ 小	20-30	2,500		
一本釣	50	マダイ 中、小	3-15	1.0	2,500-3,000	
		マダイ 大	2-3	0.3	4,000	
刺網	17	マコガレイ	20	0.5	700	
		サザエ	5-10	1.0	1,200	
突棒	5	赤ナマコ	15-30	1.0	800	
		アワビ	3-8	0.8	2,500-4,000	
		サザエ	10-15	1.2	1,200	

漁業種別	隻数	主魚種	一隻 日平均		キロ単価(円)	備考	
			漁獲量(kg)	前年比			
小型底曳網	2	シラサカ	0.5	0.5	4,000	エビ得	
		カウビ	1	0.5	2,000		
		小エビ	5	0.5	300-700		
		ガザミ	1	1.0	1,200-3,000		
		アカシタ	1	0.4	1,000-2,000		
		マコガレイ	10	0.5	800		
		メイトガレイ	10	1.2	1,300-2,700		清網
		ヒラメ	2	0.5	2,000-10,000		
		カサゴ	3	0.5	1,000		
		オコゼ	1	1.0	7,500		
一本釣	4	マダコ	4	0.5	850-1280	魚桁	
		メイトガレイ	6	0.6	2,000		
		クロウシノシタ	2	0.5	2,500		
		コチ	1	0.5	1,000		
船曳網	5	サヨリ	10枚		1,750-3,100		
		タチウオ	90	1.0	700-1,300		
一本釣	4	カサゴ	4	1.0	1,500		
		マダコ	6	0.6	850-1,280		
		カサゴ	5	0.5	1,000		
		サザエ	10	2.0	1,100		
刺網	5	マコガレイ	2	0.5	700		
		キス	40	0.8	1,130		
		アワビ	10	0.5	3,000-8,000		
		サザエ	10	2.0	1,100-1,500		
一本釣	2	ウニ	2枚	1.0	1,500		
		赤ナマコ	20	1.0	1,000		
		青ナマコ	5	0.5	500		
		アサリ	45		220-500		

漁業種別	隻数	主魚種	一隻 日平均		キロ単価(円)	備考			
			漁獲量(kg)	前年比					
小型底曳網	20	アナゴ	6-8	1.0	2,000-2,300				
		キス	3-6	1.0	1,200-1,500				
		エビ	1-3	0.8	500-1,100				
		ウマヅラハギ	5-10	0.8	700-800				
		カサゴ	10-30	1.0	1,800-2,000		瀬戸内		
		アイナメ	3-8	1.0	1,000-1,200				
		一本釣	15	メバル	1-2		1.0	2,600-3,000	
				カサゴ	1-2		1.0	2,800-3,200	
				タチウオ	10-50		1.5	500-900	
		一本釣	30	サワシ	1-3		1.0	1,500-1,600	
サゴシ	1-2			0.5	1,100-1,200				
アナゴ	40-60			1.0	2,000-2,100				
延縄	6	キス 小	100-150	2.0	400-450				
		キス 大	30-60	1.5	1,800-2,100				
刺網	5	マコガレイ	1-2	1.0	1,000-1,500				
		メバル	2-4	2.0	2,000-2,400				
一本釣	5	キス	10-30	1.5	1,800-1,900				
		赤ナマコ	3-8	1.0	800-1,000				
一本釣	10	青ナマコ	2-5	1.0	1,600-1,800				
		アワビ	2-3	1.0	3,800-4,300				
		マダコ	10-30	0.8	1,300-2,000				

水試ノート マコガレイについて

(四) 資源調査について

本年度より資源培養管理対策推進事業がスタートしました。この事業は漁業経済調査・天然資源調査・栽培資源調査の三つから成り立っています。このうち栽培資源調査はマグロの放流効果の把握を主な目的としています。また漁業経済調査と天然資源調査はカレイ・ヒラメの資源管理方針を見出すことを目的としています。適正な資源管理を行うためにはより正確な資源量の把握が必要です。これまで水試が行ってきた調査もその多くは資源量の把握と資源量の変動を明らかにすることを目的としています。そして、それら調査の実施にあたっては漁業者の方々と漁協の方々の協力が不可欠です。これらが今までの調査の経緯をみてみますと、

水試が何のために多くの魚を買い上げて調べたのか、また市場魚の長さを測るのか等について、十分説明されているとは思いません。今年度から新しい事業がスタートしました。またこれからこのような仕事が多くなっていくと思われまふ。そこで水試が行う資源調査について一人でも多くの方々に理解していただくよう、マコガレイを例に、各調査の意義について述べてみたいと思えます。

(市場調査) 市場調査と云うのは何と云うか、具体的に水揚げされたマコガレイの長さ(体長)を測ることです。体長を測ると云うのもむやみに測ったのでは意味がありません。その日市場に水揚げされたマコガレイ全数を測るとか、

多すぎて測れない場合は何隻分かを抽出して、その抽出した分について全数測るとかします。つまり、水揚げされたマコガレイのありのままの体長組成を求めるのがこの調査の目的です。ではこの調査から何が得られるのでしょうか。少し話は飛びますが、今、仮に、漁業が全く行われていない状態を想定してみます。この状態では大きいカレイも漁獲されずに生き残っていますから大型のカレイ(高年令)の割合が相対的に多くなるでしょう。そして、この状態から漁業が始まり、漁船が増え、いまますと、どんどんカレイは漁獲され、しまいには小型魚(低年令)ばかりになってしまふでしょう。獲りすぎると小型魚ばかりになってしまふ事実は、漁業者の方自身、体で感じておられるのではないのでしょうか。ここまでお話しすると、こ

うお解りのことだと思いますが、つまり、体長組成を調べるといって漁業の強さを推定することができるのです。言い換えれば、漁業の強さ(漁獲量)と、漁業の異なる海域があったとすれば、両海域のマコガレイの体長組成は異なるのです。市場調査は一回だけでは正確な情報しか得られません。ですから一カ月以上継続して調査しなればなりません。得られた体長組成から漁業の強さの具体的な数字(漁獲死亡係数)を推定するわけですが、そのままでは求まらないため、体長組成を年令組成に変換する必要があります。



うお解りのことだと思いますが、つまり、体長組成を調べるといって漁業の強さを推定することができるのです。言い換えれば、漁業の強さ(漁獲量)と、漁業の異なる海域があったとすれば、両海域のマコガレイの体長組成は異なるのです。市場調査は一回だけでは正確な情報しか得られません。ですから一カ月以上継続して調査しなればなりません。得られた体長組成から漁業の強さの具体的な数字(漁獲死亡係数)を推定するわけですが、そのままでは求まらないため、体長組成を年令組成に変換する必要があります。

一月十七日
第三四七回但馬海区漁業調整委員会を但馬水産事務所会議室で開催

一、中野まさ網漁業の許認可取扱方針について(諮問)
審議の結果、原案どおりで差支えない旨を申すことに決定されました。

二、岡山・兵庫県瀬戸内海連合海区漁業調整委員会について
二月二十一日、岡山市で開催されることなっているが、入会協定については昨年どおりの内容で行うことに決定されました。

三、その他
一月二十六日
第二〇五回兵庫県瀬戸内海海区漁業調整委員会を県中央労働センターで開催
第二回沿岸漁業調整問題検討会の経過等が報告されました。

海区漁業調整委員会だより

そこで顕微鏡の下で年輪の数や、耳石の中心から年輪までの長さを測ります。こうして年令と成長の関係、つまり成長式を求めます。また、体長と体重の関係式も求めたいわけですから、そこで買上げたマコガレイについて、まず体長と体重を測ります。そして耳石を採取します。耳石は魚の頭部にあり、長さ三〜四mmの石灰質のもので、ちよど米つぶを押しつぶしたような形をしています。この耳石には一年に一本の年輪が表われます。

そこで顕微鏡の下で年輪の数や、耳石の中心から年輪までの長さを測ります。こうして年令と成長の関係、つまり成長式を求めます。また、体長と体重の関係式も求めたいわけですから、そこで買上げたマコガレイについて、まず体長と体重を測ります。そして耳石を採取します。耳石は魚の頭部にあり、長さ三〜四mmの石灰質のもので、ちよど米つぶを押しつぶしたような形をしています。この耳石には一年に一本の年輪が表われます。

一人百句

如月
上げ潮や 浮き二月の海に浮く
磯の香の ふくよかに海苔掬別す
海のかやき 及びて梅のほころびぬ
浪なくて 潮の濃淡風花す
航跡の ながく雨す瀬戸余寒
早春を 吃水深く 入港す
海へ舞い 消ゆるとき雪はむらさきに
立春の 満月を置く洲は昏れず

七草や
今日を限りの昭和逝く
昭和天皇さま、長い間に苦労なまされた。それが直感として、何のためらいもなく、しかもあまり推敢もせず句帳にした、められた。そして、史記の五常本記でいうところの内平かにして外成る御代に思いをいたし、冬晴れのあくまで透いた虚空に目をやった。やがて私の好きな、藪つばきも咲くだろう。

一、中野まさ網漁業の許認可取扱方針について(諮問)
審議の結果、原案どおりで差支えない旨を申すことに決定されました。

二、岡山・兵庫県瀬戸内海連合海区漁業調整委員会について
二月二十一日、岡山市で開催されることなっているが、入会協定については昨年どおりの内容で行うことに決定されました。

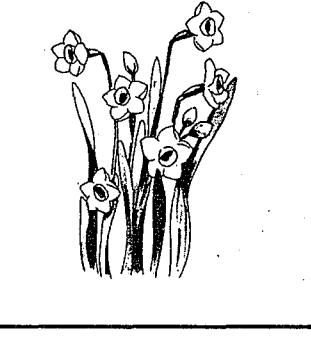
三、その他
一月二十六日
第二〇五回兵庫県瀬戸内海海区漁業調整委員会を県中央労働センターで開催
第二回沿岸漁業調整問題検討会の経過等が報告されました。

この中で同時に求めておきます。このようにして年間合計の年令別漁獲尾数が求まると、先ず調査月一〜二回です。ですから調査海作業をもとに若干の解析領域全体の年間合計の年令別漁獲尾数を求めるために、各組合の毎月の漁獲統計資料を収集しなければなりません。得られる漁獲統計資料はすべて重量(尾)単位です。これを、漁獲尾数に直すために、きたきらいがあります。このように、資源量推定の精度に大きく影響して、年令別の一尾当り漁獲尾数を分けていなければなりません。この情報は先の生物測定調査管理型漁業の展開にあ

たつては、その重要性が改めて認識されなければなりません。以上説明しましたように、すべての調査は極めて論理的に結びついていきます。つまり魚の長さを測る、そのことには非常に重要な調査ですが誌面の都合で割愛させていただきます。海の中の資源には限りがあります。しかし、ただ調査には時間がかかります。このため一方によって限らない仕事を繰り返すように見えます。これは人間の資源ともなり得ます。ここに述べた調査が上手な資源の利用に少しでも役立つことを願っています。

こういうコラムは、片隅にいかにもつましやかに掲載されてこそ、光ります。それがマア、目をむいたような巨きな活字や、レイアウトには全く魂断た。多くの業界新聞を見るにつけ、おしまいに小さくあくまでもしゃばらずに、短歌や俳句がのってたりすると、安堵を覚える。

ゆらぎよれん山上
平成元年・一・一七記



季節風

寒冬・夏の異常季節に思う

大塚 久

昭和五十九年は、幸十六年の大雪年を上回る最盛積雪を記録した。...

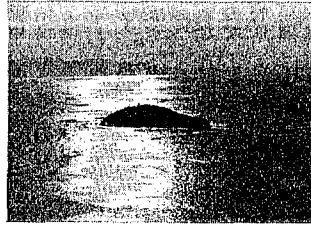


平成元年、最初の取材は三年ぶり二回目の兵庫県相生市からです。

平成元年、最初の取材は三年ぶり二回目の兵庫県相生市からです。...

なった。ただ、近畿地方のなかで大阪だけが飛び抜けて暑かった。

また、漁業の方では良質のカキの養殖に力を入れています。



養殖場風景 (おわん島)

分かったようである。また、この年の夏のクラップをひもとくと、昭和五十九年の冬の天候は、多くの分野にかなりの影響を及ぼした。

栽培漁業センターです (8)

暖かい日が続き、キー場等は困っている様子が栽培センターには非常にお助かる。



仔魚の顔のワムシ

人の好みの変わる物もある。脂肪の多いアイスクリームは最高気温が三〇度を越すと途端に売れ行きが落ち、そんなときは、あっさりした味のかき氷の方が売れるといわれている。

日一〇億以上のワムシが必要。このワムシをささえる海産クロレラ...

お詫び 編集部ミスにより先月号(No.三八七)の左記の二点が誤っております。



④(前由良町漁業協同組合連合会参事) ⑤(由良町漁業協同組合連合会参事)